

発行日：平成 23 年 12 月 15 日（毎月 1 回発行）

※福島県は、着実に復旧・復興に向けて前に進んでおります。今の福島の暮らしをご覧ください。なお、本紙の英語版・中国語版・韓国語版・ポルトガル語版・タガログ語版・フランス語版は、当協会HPからダウンロードできます。

【(財)自治体国際化協会助成事業】



## 福島の風物



ふじりんごの出荷が始まる  
(伊達市 2011.11.20 撮影)

リンゴは、ももと並んで福島県的主要果物です。特に種の周りに蜜がたっぷり入ったふじりんごは、その甘さ、香り、大きさとも国内はもちろん海外でも高い評価を得ています。



夜の街を彩るイルミネーション  
(福島市 2011.12.1撮影)

年末年始の風物詩、ふくしま冬のイルミネーションがスタートしました。商店街の街路樹に飾られた色とりどりの灯には、復興への希望が込められています。



チリの幼稚園からメッセージ届く  
(福島市 2011.12.9 撮影)

以前、AFS 交換留学生として福島県内の高校に在籍していたチリ出身のフェリペさんが、母国の幼稚園から贈られてきた福島県を応援するメッセージを、めばえ幼稚園に届けました。



## 福島からの声

### 瓜生賢恵さん (喜多方市 男性)

喜多方は「蔵とラーメンの街」として観光業が大きな産業です。年間 500 校に及ぶ修学旅行を受け入れてきましたが、今年は例年に比べ 95% の減です。喜多方の環境放射能測定値は低いのですが、風評被害で大きな損害を被っています。街中に観光バスが見当たらないのです。商工会議所では、「ふるさと友だち大作戦」と銘打って、絵葉書を全世帯に配布し、親戚知人に喜多方市の安全性をアピールしようと全市民挙げて取り組んでいます。早く原発事故の収束宣言が出ることを祈るばかりです。長期戦になることは覚悟していますが、精神的なダメージも心配されます。どうか皆さん頑張りましょう。「心はひとつ福島」です。

### 吉田恵さん (福島市 女性)

私は、新潟県出身で名古屋の大学院を修了し 4 月から林野庁での採用が決まっていた。震災前日の 3 月 10 日に勤務先が福島市という通知があり、その直後の震災でした。当時は交通や通信が遮断されていたので本当に 4 月から働けるのだろうか心配していました。また徐々に放射線に関する情報が流れてきて、不安もありました。しかし、引越などは両親の協力もあり、無事赴任することができました。放射線など不安もありますが、現在の生活に不満はありません。福島は買い物も便利で、田園風景もいい。あと 2 年間は福島で生活する予定なので福島を堪能したいと思っています。

### 菅野正美さん (二本松市 フィリピン出身女性)

震災直後は、浪江町のほうから多くの方が避難してきたので、近所の人たちと一緒に避難所でボランティアをしていました。地震や放射線のこととはとても恐ろしかったのですが、今回の震災で家族や家を失った人がたくさんいる中、私はまだまだいい方です。今、ごはんは、子ども用には県外産米にして、大人とは別にして毎食 2 釜炊いています。毎日目に見えない放射線と戦っている感じですが、でも愛する家族と一緒にだからがんばれます。そしてなるべく様々な行事やイベントに参加してストレスを溜めないようにしています。

### 張 群さん (福島市 中国出身男性)

市内で中華料理店を経営しています。地震直後は、改装して 1 年も経っていない店の中はめちゃくちゃになり、停電、断水で営業も出来ず、これからどうしようと本当にショックでした。でも日頃からごひいきにしてくれていたお客さんが徐々に戻り、今は何とかやっています。これまで 1 日も休まずこつこつと地道にやってきたことが、お客さんとの信頼関係につながったのだと思っています。大きな大きな財産です。震災の影響で観光業は大きな打撃を受け、同業者である旅館のcockさんたちの中には職を失った人も多くいます。政府には 1 日も早い復興対策をお願いしたい。とにかく美味しい料理を提供して人とのつながりを大切に暮らしていこうと思っています。